

4 都市や産業の発展と自然環境

○大陸に近い都市、福岡

^{はかた}博多湾: 福岡市の海の玄関口、波が穏やかで船が行き来しやすい天然の良港
→福岡市は古くから大陸との貿易を行い、港町として発展
→現在でも中国や韓国といった近隣の国々との交流が盛ん

○九州の中心都市としての役割

福岡市: 九州最大の都市

政府の出先機関や大企業の九州支社などが集中
九州の各都市と鉄道や高速道路で結ばれる
商業施設や文化施設が集中し、買い物や観光に訪れる人も多い
→政治や経済、文化において九州地方の中心的な役割

○地下資源を生かした工業の発展とその変化

九州北部: 地層に豊富な石炭が含まれる

→江戸時代から、筑豊炭田^{ちくほう}をはじめ多くの炭田で石炭を採掘

北九州市: 筑豊炭田と、当時の鉄鉱石の輸入先だった中国に近い

1901年: 官営の八幡製鉄所がつくられ、鉄鋼業を中心に(北九州工業地帯^{***})として発展

第二次世界大戦後: 北九州工業地帯の生産が伸び悩み、水質汚濁などの(公害)が深刻化

現在: 環境保全の取り組みやリサイクル技術で世界から注目が集まる

九州の工業の変化

1970年代に(IC(集積回路)^{***})の工場が急増、電気機械工業が盛んになる

→1990年代以降、外国企業との競争が激しくなり、アジアの国々へ生産拠点を移す企業も増加

※(IC(集積回路))とは、シリコンの結晶で作った基盤の上に、超小型の回路を集めた電子装置のこと

九州北部に自動車の組み立て工場が進出、関連する部品工場も増加

→生産された自動車は、中国やアメリカなどへ輸出される

例) 宮若市^{みやわか}(福岡県)や中津市^{なかつ}(大分県)の自動車組み立て工場など